



新工SPH通信

VOL.30

新潟県立新潟工業高等学校

SPH推進委員会

平成29年12月12日

Community cooperation

平成29年12月8日（金）1学年の生徒を対象に、多様な文化や価値観を知り、国際理解を深め、国際社会貢献について関心・意欲を深めることを目的に「グローバルに生きる」をテーマにNGO新瀾アピの会 倉田洋子会長、新潟県立大学地域学部 榎本未希様 を講師にお招きし、本校体育館で講演をしていただきました。新潟工業高校では、ボランティア部が文化祭でアピの会のスリランカカレーの販売を行い、その売り上げを寄付したり、古くなった車いすを修理して、アピの会を通じてスリランカに送ったりしています。



【講演内容】

- 日本は第二次大戦後、サンフランシスコ講和会議でスリランカの助言により、領土分割を免れた。
- アピの会では井戸の整備や教育、医療に関する支援の他、新潟県立大学の学生をスリランカに派遣し、自分を見つめ直して、人の助けになる人材になるよう促す活動をしている。
- スリランカは貧しい国であるが、人々は自然と心の豊かさが感じられる生活をしている。
- 「グローバル」とは地球規模の視点（グローバル）と地域の市民（ローカル）の視点の両方を合わせたもの。
- 世界で活動して地域のことを考えることと地球規模で考えて地域で活動することのどちらも必要。

【生徒の感想（スキルアップシートより）】

- スリランカは貧しい国かと思っていたけど、話を聞いたり、写真を見たりして、いい国だなと感じました。暮らし方や食べ物なども全然違って、面白いと思いました。
- 日本を出て様々な文化を知り、日本を客観的に見てみたいと思った。日本がどういう存在なのか少しわかった。
- スリランカの人々は誰にでも優しく接してくれるので、家族も自然も動物も大切にしていこう、誰とでも仲良く接しようと思いました。
- 今の日本があるのはスリランカの1つの行動のおかげだということを頭の隅に置いて、積極的に支援しなければいけないと思った。

【生徒の変容と身についた力（スキルアップシートより）】

- 「グローバル」の意味を理解し、「地球規模で考え、地域で行動する」ために、自分は何ができるのか考え始めた。
- 自分の置かれた恵まれた環境に気がつき、日本は他の国々との関わりの中で成り立っているので、経済的に貧しい途上国への積極的な支援が重要であると考えようになった。
- 経済的に貧困であるスリランカに心豊かな暮らしがあることが分かり、自分たちの自分中心の生活を振り返るきっかけになり、視野を広げたいと考える生徒が多かった。
- スリランカの衣・食・住の様子を垣間見て興味を持ち、より多くの国の文化に対して知りたいという関心が深まった。